



啓明小だより

中野区立啓明小学校

校長 中村 明子

〒165-0034 東京都中野区大和町 1-18-1

電話 03-3330-2325

FAX 03-3330-2326

HP <http://nk-keimei-e.la.coocan.jp>

No. 553号 夏休み号 発行 令和2年8月3日



うずら

校長 中村 明子

6月1日に学校が再開した日、うずらの卵を孵卵器で温め始めました。予定では、17日後に雛が誕生します。子供たちがちょうど学校のリズムに慣れ、軌道に乗ってくる頃です。学校に来る楽しみの一つになってくれたらと思います。

6月18日の朝、ぶち柄のうずらの卵からぬれた一羽が出てきました。子供たちがのぞき込んでいると、その後、次から次へと全部で7羽が誕生です。最後の雛が卵から出てくる時には、最初に生まれた雛が手伝っていて、まさに啐啄同時（雛が卵の殻を破って出ようとする時、親鳥も殻をつつき誕生を助けること）です。孵卵器で孵したので親鳥はいなく、うずら兄弟の仲の良さを目の当たりにしました。

「かわいい」とかわいい1年生からも言われてすっかり啓明小のアイドルになった7羽の雛は、6年生の中嶋君や田邊君、理科・栽培委員会の人たちに面倒をみてもらい、1ヶ月半で立派なうずらになりました。休み時間には、多くの子供たちの掌で抱かれて、甘えています。子供たちにとっても、体温を感じる温かい生き物の生と死を体験することや、動物の面倒を見るという活躍の場を得ることは、貴重な経験です。このたよりが発行される頃、うずらの兄弟たちは正門を入ったところにある動物ハウスに引っ越し、今度は4年生に面倒を見てもらっていることでしょう。

啓明小には、他にもたくさんの生き物が子供たちと共にいます。3年生がプールから救い出して孵化させたヤゴがトンボになり、教室の本の角や棚の先、あらゆるところにとまっています。芝生の上もトンボでいっぱいです。4年生は丸々太ったカブトムシの幼虫を育てました。成虫になってみると、中にはめずらしいオキナワカブトムシも混じっていてみんな大喜びだったとか。本校の中澤先生はアメリカザリガニの卵を孵すのが上手で、子供たちは、脱皮を繰り返して大きくなるザリガニを毎日見えています。

また、学校園には、2年生の育てるナス、トマト、オクラ、サツマイモ、シシトウが実っています。元校長先生でいらした井澤秀雄先生がご厚意で世話をしてくださっていて、黒いビニールマルチを張って育てる本格農園となっています。他の学年にも、ホウセンカ、ゴーヤ、ヘチマ、イネ、ジャガイモ、そしてスイカもプレゼントして植えていただきました。野菜のためにも、雨が上がりもっと日が照ってほしいです。子供たちは自分たちで育てた野菜を嬉しそうに収穫しています。



新型コロナウイルスで季節感が薄れる中、学校では多くの方に支えられ、動植物が時の移り変わりを子供たちにささやいています。

どうぞ、よい夏休みを。

「すてきな夏休みを」

生活指導部 市倉 尚

今年の夏休みは、マスクを着用する、手洗いうがいを頻繁に行う、十分な栄養と休養をとる、人混みを避ける等々、コロナ渦の中、様々な対応が子供たちにも求められています。しかし、夏休みは子供たちにとってかけがえのない経験ができるよい機会となります。感染症対策をしながらも、ご自宅でお子さんと一緒に、親子読書をしたり、夜空を見あげ星座を探したり、できることを存分に楽しんでほしいと思います。

学校でも、夏休みの生活について各学級で指導をしていきます。ご家庭でも後日配られる「夏休みの生活」について共に確認をしてください。楽しい夏の思い出を作りましょう。